

北陸新幹線開業を見据えたまちづくりに関する

報 告 書



平成26年2月4日

鯖江市の新幹線開業を見据えたまちづくり懇話会

目 次

1	報告にあたって	．．．	2
2	会議の開催状況	．．．	3
3	懇話会における意見		
	(1) まちづくりについて	．．．	5
	(2) 公共交通（並行在来線、二次交通）について	．．．	6
	(3) 産業と観光について	．．．	7
	(4) その他	．．．	8
4	おわりに	．．．	9

<添付資料>

1	鯖江市の新幹線開業を見据えたまちづくり懇話会設置要綱	．．．	12
2	委員名簿	．．．	13

1 報告にあたって

北陸新幹線については、平成24年6月29日に金沢―敦賀間の県内着工が国から認可され、昭和48年の整備計画決定から38年余の長い歳月を経て、福井県にとっての悲願であった新幹線建設のスタートラインに立つことができました。敦賀開業は、平成37年度末とされていますが、政府・与党においては、敦賀までの工期短縮について検討が進められています。

この新幹線事業に対する鯖江市民の反応は、以前から新幹線の駅が設置されず通過するだけであり、鯖江―東京間の時間短縮効果も望めない、また、JR鯖江駅には三セク化で、特急が停まらなくなり、相対的にJR鯖江駅の求心力が弱まるという危機感もあり、大変厳しいものとなっています。

こうした状況の中、鯖江市としては、平成27年春の金沢開業に伴う一極集中の危機感への対応、さらには、平成37年度末の敦賀開業を見据えて、鯖江市の表玄関であり、顔ともいえるべき「JR鯖江駅」の衰退を食い止めることが必要となります。地域密着型の駅として付加価値が高まるような仕掛けや地域の魅力アップ、さらには、ブランド化に取り組み、交流人口の増加が図れるよう、市民の意見を聴取しながら、想定される様々な課題を洗い出し、魅力ある鯖江市のまちづくりについて検討するため、本懇話会が設置されました。

今回は、様々な立場の委員が集まり、鯖江市の現状と特性を把握したうえで、新幹線開業を見据えて、今後取り組むべきまちづくりの方向性について検討を行ってまいりました。報告書の作成にあたっては、本懇話会委員の意見を分類・整理し、新幹線開業に向けて検討が必要とされる事項をまとめました。

これから長い道のりになると思いますが、本懇話会がまとめた報告書が、平成22年に施行された鯖江市民主役条例の基本理念に従い、まちづくりの主役は市民であるという思いを共有し、責任と自覚を持って積極的にまちづくりを進めていき、新幹線と共存し、将来の子や孫が誇れるような、夢と希望の持てる魅力ある鯖江を実現するための、第一歩となることを期待します。

平成26年2月4日

鯖江市の新幹線開業を見据えたまちづくり懇話会

会 長	齋 藤 晉
副会長	野 村 一 榮
アドバイザー	江 川 誠 一

2 懇話会検討結果

回数	開催日時	開催場所	主なテーマ
第1回 懇話会	平成25年 2月28日(木) 15:00～17:00	市役所 別館4階 全員協議会室	1 会長の選出 2 懇話会の設置目的と今後の進め方について 3 協議事項 (1)北陸新幹線について (福井県) (2)新幹線沿線のまちづくりについて (江川アドバイザー) (3)鯖江市民アンケートの結果について (鯖江市) (4)意見交換
第2回 懇話会	平成25年 3月25日(月) 6:30～20:20	長野県 小諸市・佐久市	長野県へ先進地視察 ・JR佐久平駅周辺 ・岩村田宿 ・JR小諸駅周辺および小諸市街地 ・小諸市役所
第3回 懇話会	平成25年 5月23日(木) 10:00～12:00	市役所 別館4階 全員協議会室	協議事項 (1)北陸新幹線金沢開業を見据えた県内自治体の取り組みについて (福井県) (2)鯖江商工会議所北陸新幹線開通に伴う協議会の建議書について (商工会議所) (3)長野県視察の結果と考察について (江川アドバイザー) (4)意見交換
第4回 懇話会	平成25年 8月1日(木) 10:00～12:00	市役所 別館4階 全員協議会室	協議事項 (1)しなの鉄道の現状と課題について (長野県) (2)北陸3県の並行在来線に対する取り組みについて (福井県) (3)青い森鉄道を例にした並行在来線の活性化策 (江川アドバイザー) (4)意見交換

回数	開催日時	開催場所	主なテーマ
第5回 懇話会	平成 25 年 11 月 7 日（木） 19：00～20：15	市役所 別館 4 階 全員協議会室	協議事項 (1) 意見交換 ・委員の意見集約（最終） ・その他
第6回 懇話会	平成 26 年 1 月 17 日（金） 13：00～14：30	市役所 別館 4 階 全員協議会室	協議事項 (1) 意見交換 ・市長への報告内容の確認 ・その他

3 懇話会における意見

1 まちづくりについて

新幹線の駅が設置されない鯖江市は、敦賀開業に伴い、駅前や周辺の賑わいも低下し、人口減少や経済的な影響も懸念されている。

地域力を継続して培うためには、地域住民の参加なくして不可能であり、また即席な取り組みでは成し得るものではない。まちづくりの主役は市民であるという思いを共有し、新幹線開業をきっかけとして、鯖江のまちづくりをあらためて見直す必要がある。

< 各委員の意見 >

- ・ まちづくりを進めるうえで、そのまちを共につくりだす「人づくり」が重要である。加えて、そのまちを創り、支え、育む「ものづくり」も必要となる。
- ・ 隣のまちから来てもらえるようなまちづくりや、歩いて回れる街並みづくりを検討すべきである。
- ・ 駅に降りたときに「いいところだな」と思ってもらえるような、駅に活気が生まれるような取り組みが必要である。
- ・ 西山公園や道の駅、その周辺施設や商店街を回遊できるようなまちづくりの検討が必要である。
- ・ 鯖江の強いオリジナリティとブランドをつくっていくことが重要であり、新幹線によるマイナスの部分が多い中で、それを乗り越えられるだけのものが必要である。
- ・ 市民が身近に集える場所をつくり、そこを中心ににぎわいを取り戻していくことが重要である。
- ・ 10年後、福井県内に新幹線が開業した時に、鯖江にも行ってみたいと思えるような目玉となるものが必要である。
- ・ 小さなエリアですべてのことが網羅できるような、コンパクトにまとまったまちづくりを検討すべきである。
- ・ コンパクトシティ、IT、おもてなしなどいろいろアイデアはあると思う。目標を持って、みんなが同じ方向を見ながら、議論を進めるべきである。
- ・ 鯖江の歴史、伝統、文化を守っていき、鯖江の良さを見直すべきである。
- ・ まちづくりの検討は、若者の意見を聴取するなど、継続的に取り組むことが重要である。

2 公共交通（並行在来線、二次交通）について

鯖江市には新幹線の駅が設置されない。また、北陸本線は、敦賀開業後、ＪＲ金沢駅からＪＲ敦賀駅までがＪＲから経営分離されることになり、ＪＲ鯖江駅には、「サンダーバード」や「しらさぎ」といった特急が停まらなくなる。

鯖江市としては、新幹線開業後、重要な広域交通拠点となるＪＲ福井駅や南越（仮称）駅、小松空港へのアクセス強化のため、三セク化される並行在来線、福井鉄道、コミバス等を活用した利便性の高い二次交通ネットワークの構築や、大型駐車場、道路網の整備などが重要になる。

また、三セク化される並行在来線は、地域の足としての役割も担っており、利用者の利便性の向上を図るため、朝夕の通勤、通学時間帯の利用実態に即した生活者優先のダイヤ編成や、快速列車を導入することも、重要な視点である。

< 各委員の意見 >

- ・ 鯖江市と新幹線の最寄り駅であるＪＲ福井駅、南越（仮称）駅とのアクセス強化が必要である。
- ・ 関東からの来客は、南越（仮称）駅よりもＪＲ福井駅を利用される方が多くなる。集客力の面からも、ＪＲ福井駅との連携を最優先に考えるべきである。
- ・ 道路や交通網の整備は重要なことであり、福井鉄道との連携も図りながら、利用者の利便性確保に力を注ぐべきである。
- ・ 駅名はＰＲ効果が大きいことから、新しく設置される南越（仮称）駅の駅名選定にあたっては、「鯖江」という表記を入れるよう要望していくべきである。
- ・ 南越（仮称）駅を鯖江市民がどれぐらい利用するのかを現実的に捉えたうえで、大規模駐車場の整備について、鯖江市として、南越（仮称）駅周辺を整備する越前市に対して要望していくべきである。
- ・ ＪＲ鯖江駅周辺や鯖江インターチェンジ付近に、大型駐車場の整備を検討するべきである。
- ・ 三セク化される並行在来線において、地域密着型のダイヤ編成や快速列車の導入、さらには、サンドーム福井付近に新駅を設置するなど、市民ニーズを加味した取り組みが必要である。
- ・ 三セク化される並行在来線と福井鉄道とが共存できる取り組みが必要である。
- ・ 三セク化されるＪＲ鯖江駅の新たな使い方を検討するべきである。

3 産業および観光について

鯖江市には、西山公園をこえるような観光資源はない。平成26年春には、西山公園に「道の駅」が整備される予定となっているが、それだけでは厳しい。

地域に埋もれていたり、地域の方が当たり前のこととして普段気づいていない地域資源の魅力を発掘し、新たな観光資源として開発していくことが重要であり、「おもてなしの心」の醸成を図り、地域全体として観光客やビジネス客を誘客する中で、もてなす気運づくりも必要となる。

また、伝統産業とものづくりを活かした産業観光の推進を図ることも重要である。

< 各委員の意見 >

- ・ 鯖江に活気生まれるために、めがね、繊維、漆器など鯖江の魅力を発信することが大事である。
- ・ 鯖江のめがね、繊維、漆器など地場のものをフルに活用し、鯖江らしいおもてなしで魅力を発信するべきである。
- ・ 新幹線の開業だけでは、鯖江に利便性の向上やまちの活性化は望めない。「めがねのまちさばえ」を、積極的に発信するべきである。さらに、チタン技術を活かして新しい分野に進出し、医療器具産業や楽器産業等、精密チタン加工の集積地として、新たな魅力ある鯖江のまちづくりを検討するべきである。
- ・ 観光地が少ない分、産業観光に力を入れ、地場産業地での手作り体験や視察を通して、多くの観光客を鯖江に呼び込むことが必要である。
- ・ 鯖江は、観光よりもビジネスで訪れる方が多い。三セク化される並行在来線と新幹線との乗り継ぎ利便性など、ビジネスマンの利便性を確保するための方策を検討するべきである。
- ・ 市民が鯖江を自慢する活動を展開し、最終的には市民全員が観光の営業マンになっているとよい。
- ・ 鯖江には地場産業と伝統産業がある。それに体験型、学校教育と連携したおもてなし、人と人との出会いの要素を加えて、地域活動や学習と社会のつながりが実感できるような取組みを進めて、人を呼び込むための方策を考えるべきである。
- ・ 鯖江に人を呼び込むためには、やはり交通網の整備と鯖江に魅力ある観光地が必要になる。
- ・ 「道の駅」を観光客だけでなく、市民が集える場所としても活用するべきである。

4 その他

新幹線の県内延伸が、平成27年春に迫った金沢開業から10年強後では、金沢や富山から後れを取ってしまい、福井が取り残されてしまうという危機感がある。

また、2018年（平成30年）には、福井県で国体が開かれるほか、2020年（平成32年）には、東京でオリンピックが開催されることが決定した。

こうした状況の中、県内への1年でも早い延伸が求められており、官民一体での実現に向けた取り組みが必要である。

< 各委員の意見 >

- ・ 敦賀開業は、10年強後である。その時、鯖江市の中核を担う若い人たちの考えを聴く機会を持つべきである。
- ・ JR鯖江駅に特急が停まらなくなり、大阪等への利便性が悪くなると、将来の子供たちの進路の選択肢が狭まるのではないかと危惧している。
- ・ 福井国体を見据えて、福井経済同友会からも提言されているように、福井先行開業を検討するべきである。
- ・ 鯖江市は、関東圏よりも関西圏や中京圏とのつながりが強い。その方面へ少ない乗り継ぎで、早く行けるような交通利便性を確保するべきである。
- ・ 北陸新幹線は全線が開通しなければ、鯖江にメリットは生まれない。
- ・ 産業面、観光面やまちづくり面における、鯖江の「売り」を見つけ出す必要がある。
- ・ 県内の他市町との差別化とPRポイントの議論が必要である。
- ・ 全国配信するメディアを活用して、鯖江市をPRすることが重要である。
- ・ 若者が集え、活躍できるITを活かしたまちづくりを推進するべきである。
- ・ 「サバエドッグ」のような、鯖江でしか味わえないグルメをつくり出す。
- ・ サンドーム福井など集客力のある施設を有効活用し、その施設へのアクセスをよくする必要がある。
- ・ 懇話会で出された意見を公開し、新幹線開業をきっかけとした鯖江のまちづくりについて、市民が問題意識を持ち、考えるきっかけになればよいと思う。

4 おわりに

北陸新幹線敦賀開業により、鯖江市は大変厳しい状況に直面する。現在は特急停車駅のある県内の沿線5市のうち、唯一、新幹線駅が設置されない市となる。高速交通体系の結節点が市内から市外へと移動することになり、鯖江市は新幹線開通により却って発展から取り残されるのではないかという懸念が生じている。このことは、本懇話会において各委員から繰り返し強調されてきた。

一方で北陸新幹線敦賀開業により、新幹線駅周辺を中心に、福井県全体としては交流人口の増加による経済効果がもたらされる。東京や長野方面との時間短縮は、これまでとは異なる巨大かつ新たな交流を生むとともに、東海道新幹線とともにループ化されることでダイナミックな人の流れが生まれ、その恩恵が福井県にも及ぶ可能性がある。

そのような状況のもと、現状を嘆き、いたずらに危機感をあおるだけでは何も生まれない。幸い、その時期までの時間は十分にある。この危機感をバネに今一度足下を見直し、福井県全体へと幅広く波及する経済効果を市内へも誘導するための方策を、真剣に検討する必要があるのではなかろうか。

それでは、北陸新幹線敦賀開業を見据え、鯖江市は何をすべきであろうか。

本懇話会を通じて、我々は先行する新幹線開業地域を視察し、駅の設置された地域、設置されなかった地域のそれぞれにおいて、光と影が生じていることを学んだ。また、並行在来線が第三セクター化されることによって、どのような影響が生じるかについても考察した。各委員からは、「まちづくり」、「公共交通」、「産業と観光」及び「その他」という視点から貴重かつ多様な現状認識や意見が交わされ、その結果を取りまとめたのが、「3 懇話会における意見」であり、敦賀開業に向けて、今後、検討すべき視点をほぼ網羅したものとなっている。私からの補足として、重複する項目も含まれるが、次のような三点を中心に、今後、まちづくりを進めていくことを提言したい。

第一に、市民や来訪者に対して、高速交通体系とのアクセス面において高い利便性を確保すること。市内と新幹線停車駅であるJR福井駅や南越（仮称）駅とのアクセス強化、また第三セクター鉄道における地域密着型のダイヤ編成と快速列車の導入、さらには福井鉄道やバスとの連携等を図ることにより、利便性の高い総合交通ネットワークを構築することが重要である。

第二に、新幹線の駅がなくても、わざわざ訪れたいような魅力を創出すること。県内外からみて、他市では新幹線停車駅として自ずとインプットされるのに対し、鯖江の露出度が相対的に低下する恐れがある。鯖江オリジナルのまちづくりと情報発信により、鯖江ブランドの維持・向上を図ることが重要である。例えば、鯖江市の強みである伝統産業やものづくりを活かした産業観光の推進、ITを活かした個性的なまちづくりの推進等が考えられる。

第三に、協働のまちづくりを推進し、ソフト・ハード両面における鯖江のへそを再構築すること。市内各地域から、JR鯖江駅を経由せずにJR福井駅や南越（仮称）駅へとアクセスするケースが増加するなど、JR鯖江駅周辺の中心市街地の求心力が弱まる

恐れがある。一方で鯖江市は、市民提案型や学生提案型のまちづくりを推進するなど、協働のまちづくりという面において県内でも先進地である。この強みを生かし、鯖江のへそづくりに協働で取り組むことが求められ、例えば、J R鯖江駅（駅舎、駅前広場等）の新たな使い方による求心力の再構築や、J R鯖江駅周辺と西山公園周辺との連携強化を図ることなどが考えられる。

本懇話会は、北陸新幹線敦賀開業を見据えた鯖江市のまちづくりに関し、認識を共有化し、今後検討すべき論点を整理することに重点を置いた検討の第一歩である。本報告書をベースにして、敦賀開業に向け、市民、事業所、行政が一体となった検討及び取り組みを進め、個性ある魅力的なまちづくりを実現していくことを願ってやまない。

平成26年2月4日

鯖江市の新幹線開業を見据えたまちづくり懇話会
アドバイザー 江川誠一

添 付 資 料

鯖江市の新幹線開業を見据えたまちづくり懇話会設置要綱

(設置)

第1条 平成37年度末の北陸新幹線敦賀開業を見据え、本市の魅力あるまちづくりを推進するにあたり、広く市民の意見を聴取するため、鯖江市の新幹線開業を見据えたまちづくり懇話会（以下「懇話会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 懇話会は、次の各号に掲げる事項について検討する。

- (1) 北陸新幹線開業を見据えたまちづくりに関すること
- (2) 並行在来線を含めた公共交通に関すること
- (3) 前項に掲げるもののほか、会長が必要と認める事項に関すること

(組織)

第3条 懇話会は、委員25人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 市民の代表者
- (3) まちづくりに関わる団体を代表する者
- (4) 交通事業者
- (5) その他市長が必要と認める者

(会長および副会長)

第4条 懇話会に会長および副会長各1人を置く。

2 会長および副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、懇話会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときまたは会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(懇話会の招集)

第5条 懇話会は、会長が招集する。

2 懇話会の議長は、会長がこれにあたる。

3 会長は、必要に応じ関係者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 懇話会の庶務は、総務部総務課において処理する。

(補則)

第7条 この要綱に定めるもののほか懇話会の運営に関し必要な事項は、会長が懇話会に諮り定める。

附則

1 この要綱は、平成25年2月28日から施行する。

2 この要綱は、平成26年3月31日限り、その効力を失う。

附則

1 この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

鯖江市の新幹線開業を見据えたまちづくり懇話会委員名簿

番号	団体名	氏 名	備 考
1	鯖江市校長会	内田 貞	
		堀 一之	H25.4.1 ~
2	(株)さくら	宇坪 啓一郎	
3	鯖江市商店街連合会	梅田 英治	
4	公立大学法人福井県立大学地域経済研究所	江川 誠一	
5	鯖江物産協会	勝木 弘明	
6	鯖江市老人クラブ連合会	窪田 義男	
7	誠市実行委員会	近藤 敬一	
8	鯖江市区長会連合会	齋藤 晉	
9	鯖江市連合青年団	佐々木 利広	
10	鯖江商工会議所青年部	佐飛 康央	
11	西日本旅客鉄道(株)鯖江駅	澤崎 和信	
12	鯖江市産業観光ボランティアガイドの会	菅谷 淑子	
13	鯖江市連合婦人会	鈴木 順子	
14	鯖江地区ハイヤー・タクシー業会	相馬 宏	
15	鯖江観光協会	高橋 光雄	
16	鯖江市PTA連合会	西川 善裕	
17	(社)鯖江青年会議所	西村 憲治	
18	鯖江おかみさん会	野上 仁子	
19	鯖江商工会議所	野村 一榮	
20	鯖江商工会議所女性会	橋本 好子	
21	福井丹南農業協同組合	福島 定己	
22	鯖江市民主役条例推進委員会	蓑輪 喜通	
23	福井鉄道(株)	村田 治夫	
24	鯖江市壮年グループ連絡協議会	山本 恵司	
25	学生団体w i t h	吉村 祐美	